● 小論文や面接で確かめたいこと

広尾学園が帰国生に期待していることは、まず“多様性”です。少なくとも、「いろいろな価値観や経験を持つ人々が世界中にはたくさんいる」ということを実感していることです。そのことが国内育ちの生徒にも、よい刺激を与えてくれています。

これまで繰り返し書いてきましたとおり、「いろいろな価値観や経験を持つ人とコミュニケーションがとれ、一緒にチームを作って仕事をこなし、良い結果が出せる人材」を、広尾学園は育成していきたいのです。単に学力の高い生徒を求めているわけではありません。

未経験の課題に直面したとき、前例のない事態が起こったときに、衆智を結集して何とか解決の糸口をつかんでいけるような素養こそ、中学・高校の時代に育む必要があります。学園では、そうした潜在力のある生徒を受験生の中から選び抜くために、知恵を絞るわけです。

帰国生には、あえて学科試験を課さず、小論文や面接によって「論理的に話を進めたり、相手が理解しやすい説明のしかたに工夫したりできるかどうか」を、見させていただいています。受験生の皆さんは、海外の現地校等での生活を、前向きに精一杯頑張っていただければよいのです。そのなかで培われた感覚が、私たちの心にも響いてくるわけですから。

［お知らせ］

2006年度から3年間、本学園は文部科学省から
スーパー・イングリッシュ・ハイスクールに指定されました。

広尾学園中学校高等学校
（現、順心女子学園中学校高等学校）
〒106-0047 東京都港区南麻布 5-1-14
TEL. 03(3444)7271 FAX. 03(3444)7192
www.junshin.ac.jp

小山　和智
おやま　かずとも

広尾学園中学校高等学校　国際担当
（現、順心女子学園中学・高校）

海外子女教育振興財団の外国語保持教室主任のほか、ジャカルタ日本人学校事務長、クアラルンプール日本人学校国際交流ディレクター、啓明学園国際教育センター所長を歴任。
現在は「グローバル化社会の教育研究会」の事務局長としても活躍中。

http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/

英語補習校だより（6）

新設「インターナショナル・コース」との関連

英語の“補習校”といえば、「“全日制”は?」と聞かれるのが自然の成り行きでしょうね。前々号でも、「地元の外国人子弟の教育」に貢献する「全日制インターナショナル・スクールも開校」と編集長が書かれたものですから、「いつ開校するのですか?」という質問をいただくようになりました。

いわゆる“全日制”は、広尾学園中学校高等学校の共学化（2007年4月）に合わせて開校の方向で準備中です。基本的な枠組みは、加藤学園暁秀中学高校とほぼ同じですので、そちらのページをご参照ください。主要教科は英語で指導しますが、体育や芸術などは、日本語イマージョン（広尾学園中学校の生徒と一緒の授業）となるでしょう。

学園の普通科の中に「インターナショナル・コース」を作り、外国籍の生徒を受け入れることが本来の趣旨です。しかし、在外期間が長い帰国生で、英語補習校「上級クラス」の生徒などには、特別に進学を認める方針です。将来は海外の大学に進学していくことを前提に指導しますから、親子ともにかなりの英語力を要求されますし、学費等保護者の負担費も本科生の2倍以上になります。

なお、国際生入試を受けて「特進コース」「総合コース」に入学した帰国生は、英語の時間（週5〜6時間）のみ取り出し（pull-out）て、「インターナショナル・コース」のネイティブ教員の授業を受けてもらいます。小学校の段階では、英語補習校でしっかり勉強していただきたいわけです。

http://www.toshima.ne.jp/~kyoiku/Eigo-Hoshuko-J.htm

編集長から一言

前号のこのコラムで、「男子の受入れ開始」とお知らせしました。当然ながら「順心女子学園」では、「男子生徒の肩身が狭い?」そんな訳でしょうか、学校名も、学校所在地名を取って「広尾学園」と変更になりました。

「広尾学園」の共学化だけではなく、国際化にも注目してください。広尾のある港区には40以上の外国の在外公館があり、区民の1割が外国人の、国際的な地域です。この地域の中心にあるこの学校が、学校改革の一環として、外国人・帰国子女を積極的にサポートする教育を目指すのは、もっともなことです。今後の「広尾学園」の国際化へのさらなる挑戦に目を向けてみましょう。